

認知症の高齢者や家族が集まり、介護専門職も交えて会話や喫茶を楽しむ「認知症カフェ」が、各地に生まれている。認知症の人の社会参加の機会を増やしたり、家族と専門職が連携しやすい環境をつくったりするのが目的だ。今後急増する認知症患者を支えるための地域の模索を、広島県東部のカフェでみた。(衣川圭)

2014. 9. 25. 中国

## 現場発 2014

# 地域の絆で高齢者ケア

が変わることを近所の人に「一步」と意義を認める。

も知ってもらいたい」と強調 認知症カフェは、厚生労働省が2013年度に始めた認知症施策推進5カ年計画(オレンジプラン)で普及を促進する。認知症高齢者が増加する中で、認知症

が変ることを近所の人に「一步」と意義を認める。も知ってもらいたい」と強調 認知症カフェは、厚生労働省が2013年度に始めた認知症施策推進5カ年計画(オレンジプラン)で普及を促進する。認知症高齢者が増加する中で、認知症

認知症の高齢者が利用する尾道市の小規模多機能ホーム長江のリビングで21日、「オレンジカフェ」が開かれた。地元の明徳町内会のメンバーも参加し、コーヒーなどを飲みながら、会話や体操などと思い思いの時間を過ごした。

オレンジカフェは、同施設が4月から町内会と連携して月2回開いている。2年前の夏に近くに住む認知症のお年寄りが脱水症で屋外で倒れているのが見つかったことが、きっかけになった。普段は施設を利用していない認知症の人も訪れるという。

### 薬や熱中症の勉強

事務長の松山慎太郎さん(54)は「これからは認知症の人と共に暮らしていくしかない。接し方次第で症状

## 認知症カフェ 広島県東部にも普及



認知症カフェを初めて開く福山市新市町の施設で、打ち合わせをする中司教授(右端)たち企画メンバー

## 家族と専門職 橋渡し

になっても地域で暮らせるよう支援する狙いがある。広島県の推計では、県内の認知症高齢者は10年の6万5200人から、20年には9万4800人へと増える。神石高原町は本年度、認知症予防を主な目的に、県交付金などを活用して3カ所で月2回ずつカフェを開いている。

神石地区では元旅館のサロンを活用して「認知症予防カフェふれあい」を開き、薬や熱中症の勉強の時

間も設けている。運営する神石地区高齢者介護研究会代表で看護師の高橋文子さん(65)は「家に閉じこもりがちなお年寄りが出てきてもらうのが大きな狙い。もっと細かい地域単位でカフェを開ければ」と話す。

「偏見なくしたい」福山市では、福山平成大と新市福祉会が初の開催に向け、準備を進めている。10月11日、新市町の「ローカルコモンズしんいちガーデンテラス」で開く予定。福祉会の介護スタッフや医師、同大の学生も会話に加わる。

同大の中司登志美教授(54)は、認知症を早期発見し、適切な機関につなぐ役割に注目。「認知症じゃないかと悩んでいる人にも来てもらいたい。認知症でも大丈夫と伝えられる場にもしたい」とする。

「認知症の人と家族の会」広島県支部の村上敬子代表(70)は「県内のカフェはまだ少ない。知識をもった専門職のいるカフェが広がり、認知症への偏見をなくし、社会の理解を深めるきっかけになれば」と願っている。

備後地方の主な認知症カフェ

	名称	開催場所	連絡先
福山市	ガーデンカフェ	ローカルコモンズしんいちガーデンテラス(新市町)	0847(51)2226
尾道市	オレンジカフェ	小規模多機能ホーム長江(長江)	0848(37)6101
三原市	すずらんカフェ	三原病院(中之町)	0848(63)7100
神石高原町	認知症予防カフェふれあい	ふれあいサロン呉ヶ峠(福永)	0847(89)3377
	ミニティカフェユミ	小島交流会館(小島)	
	ミニティカフェユミ	ふれあいの館(下豊松)	
	ミニティカフェ「豊松」		